

農林水産省補助事業
平成23年度 農山漁村6次産業化対策事業
技術促進対策事業

地域資源を駆使した 連携戦略の可能性とは

商品開発・技術開発の要件

香川県編

平成24年3月

公益財団法人 かがわ産業支援財団

はじめに

地域の活性化を目指し、食と農による取り組みが全国各地で実施されています。しかしながら、地域の新たな産業の創出や、地域活性化につながる成果や地域経済への波及効果につながる事例はあまり多くありません。より大きな成果の達成には、何よりも地域の研究機関や支援機関の担当者、さらには地域産業を支援する立場の皆様が情報を共有するためのプラットフォームを形成し、地域のポテンシャル(潜在能力)の洗い直しと戦略的な整理・分析が不可欠です。

このため、公益財団法人かがわ産業支援財団では、香川県の地域資源等を活用した食品産業の発展や食と農の連携による新事業の創出に向けての指針として、行政機関、試験研究機関、農水・商工団体、金融機関、大学等から13名の委員をお願いし、本書を取りまとめました。

本書では、地域ポテンシャルの分析及び戦略展開の可能性を探りながら、いくつかの具体的なテーマを設定し、生産から流通・小売・外食に至るフードチェーンの可能性を考えたロジックモデルや現地における先進的事例等を挙げて検証しています。その結果、「マーケットを見据えた域内・域外との戦略的コラボレーション」及び「『医食農連携』による戦

略的コラボレーションの優位性強化」をこれからの香川県を見据えた戦略的可能性のテーマとしてまとめました。

これらのテーマのもと、他の地域にはない、香川県ならではの新たな連携の形として「地域食農連携」と「医食農連携」の2つの連携を深めることで、より高度な連携の可能性が見えてきました。併せて、そのための人材育成や質の高い情報集約とプラットフォームの整備が今後の継続的な課題として浮かんでいますが、他の地域にはない高いポテンシャルをいかした事業への取り組みへのヒントになるものと確信しております。

さらに、関連情報として、大学、試験研究機関・普及支援機関のご紹介をはじめ、県内の食品関連企業や生産者組合・部会、生産者の情報も幅広く収集しました。

この報告書が、これから「かがわ」の原料や技術を利活用し、地域で食や農をテーマに連携を進める皆様に、事業化のための身近なハンドブックとしてご活用いただければ幸いです。

公益財団法人 かがわ産業支援財団
理事長 中山 貢

目次

本書作成の狙いと読み方	2
第1章 統計等で見える香川県の特徴	5
第2章 地域ポテンシャルの分析と戦略展開の可能性	17
第3章 テーマ別事例検証	31
第4章 これからの香川県を見据えて	45
第5章 関連情報の整理	51

本書作成の狙いと読み方

1 地域で農や食をテーマに連携を進める やる気のある『中核的な差配者』に お読みいただきたいと考えています。

農商工連携や6次産業化など、現在、国や都道府県等により進められている「地域」を基盤とした「食農連携」では、地域に潜在する資源の可能性(地域ポテンシャル)をもとに、新たな事業、市場の創出、雇用の確保、また技術との連携による生産性の向上やイノベーションの創出など、多様な展開が進められています。

このような連携による地域活動の推進は、取組を差配する中核的な人材の課題解決力や発想力、行動力、さらには熱意・思いなどにより、成果や結果が大きく左右されます。

本書では、このような人材を読み手の対象として、広く地域の連携活動の戦略を立案し、持続的且つ効果的に取組を推進してゆくための参考資料として作成いたしました。

2 出口が見えない商品開発からの 脱却をめざし、目的ある俯瞰的な 視点で内容を整理しました。

各地で進められている食農連携の多くでは、商品開発を出口とした『ものづくり』が進められていますが、これらの取組の多くで「なぜ、その商品を開発したか」、「どのような顧客層をターゲットに」「何を訴えるのか」といったポイントがみられず、結果として「売れない」「成果がでない」「活動が持続しない」といった課題となっています。

このようなポイントは一般に『商品のストーリー性』という言葉で、優位性や価値などを判断するための要素となっていますが、その一方で「商品のストーリー性とはいったいどのようなものであるか」を正確に理解している人は、商品にストーリー性を求めるユーザーはおろか、ものづくりの主体者である地域の生産者、製造業者、さら

には専門的な知識を有するアドバイザーやコーディネーターなどでも少なく、多くのケースで暗中模索のなか取組が進められているのが現状です。

本書では、商品のストーリー性を創出するための背景として、香川県に潜在する地域ポテンシャルやそれらを取り巻く社会背景的要因を踏まえ、地域の食農連携の推進における戦略などについて検討・整理を行っています。

3 「むずかしい」、「できない」ではなく、 「できるためには」、「やってみよう」、 「やらなければ」を目標にしています。

地域において食農連携などを進めてゆくには、原料調達、製造・加工、販路、価格などフードチェーンに加え、技術開発、人材、組織や連携を構築し推進するための体制や社会的背景など、多くの課題が存在することも事実です。

しかしながら、地域では大小の違いはあれ、これらを解決し、新たなビジネスモデルや社会システムを形成し、地域の将来に向け邁進している活動や取組も見られます。

これらの多くでは、「むずかしい」、「できない」といった考え方ではなく、「できるためには何をすれば良いのか、何を解決するべきなのか」、「とにかくやってみよう」、「地域のためにやらなければ」といった積極的な発想で活動や取組が着想され推進されています。

本書でも、このような視点にたち、地域ポテンシャルを広く俯瞰的に捉え、自由な発想やアイデアのもと、対象とした地域資源の可能性について言及しています。

内容として夢ものがたりになっているものもあるかとは思いますが、既に多くの連携活動や地域の取組がある香川県だからこそ、後ろ向きではない前向きな発想力を用い、今後のさらなる展開について検討を行いました。

4 もはや食農連携は国内各所で行われ陳腐化しています。その先の可能性と新たなフードチェーンとは何か

我が国の生産から小売・外食、消費に至るフードチェーンは、これまでの国や都道府県による各種の施策や民間ビジネスによる新たな発想により、多くの展開がみられるようになってきました。

生産の場面では、アグリビジネスや6次産業化が進められ、また生産者自らが販売活動に寄与する直売所やインターネット等を利用した直販活動など、もはや生産者が小売まで手掛ける機会が創出されています。

フードチェーン個々の連携による新規ビジネスの創出を目的とした農商工連携、技術を基盤とした産学官連携、異業種の交流・連携、ITの利活用による新規販売システムの創出、さらにはこれまでフードチェーンの需要者ではなかった高速道路SA・PAや鉄道・空

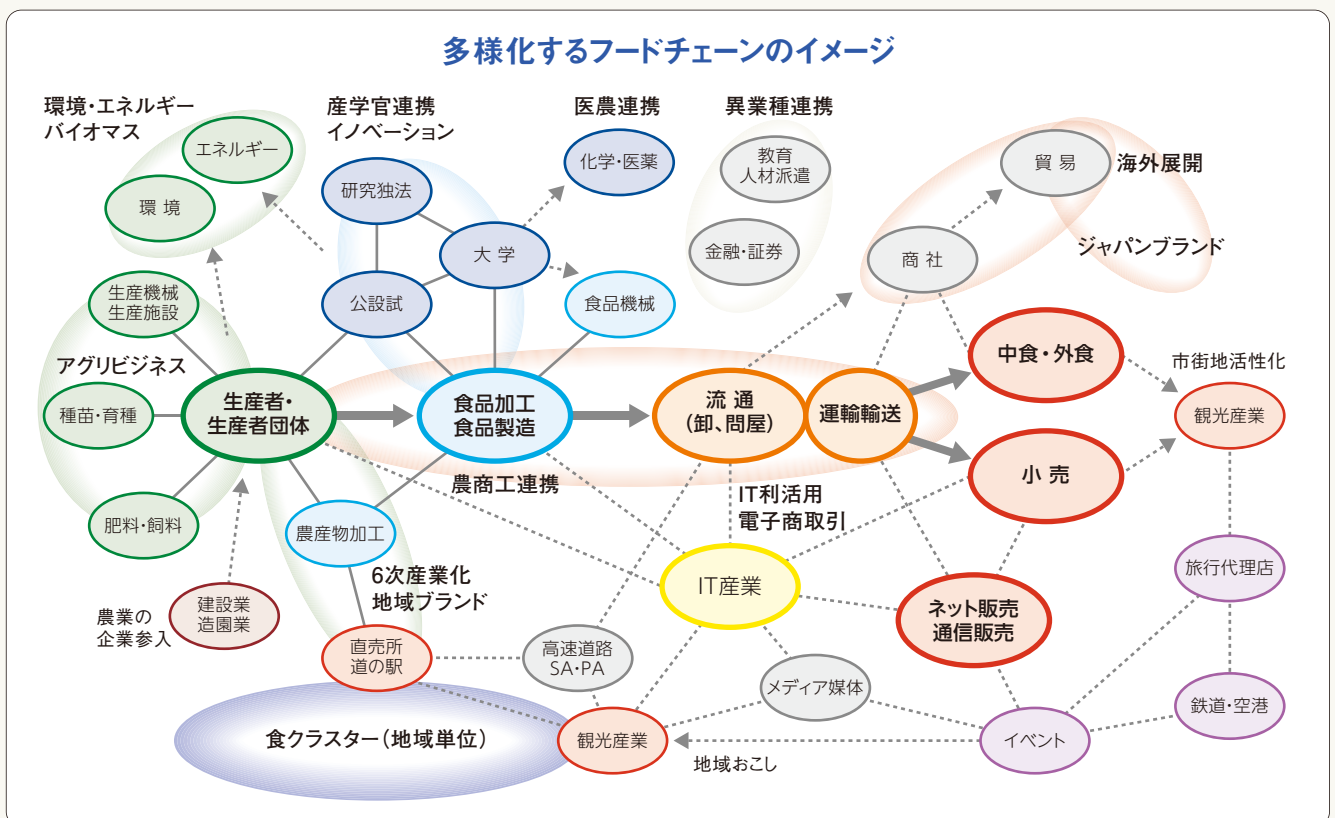
港などの動線産業、観光との連携・マッチング、地域おこし、新興国需要に対応する海外展開など、フードチェーンが多様化しています。

各地で行われている食農連携の活動は、国や自治体の施策推進もあり、北は北海道から南は沖縄まで多くの活動が存在し、既に食農連携は陳腐化しています。

今、求められるのは原料だけではなく、地域の製造・加工、技術、流通に加え、観光、地域商業、さらには郷土の歴史・景観・食文化など、全ての地域ポテンシャルを駆使した差別化戦略(オンリーワン戦略)です。

なぜ、その活動や取組が地域において優位であるのか、どのような差別性が発揮できるのかなど、多くの可能性について広く視点を持つことで、差別性のある新たな展開が期待できます。

本書をとおして、香川県ならではの活動や取組など、発想力とアイデアをもって、課題を解決してゆくための方法を検討していただければと思います。



本書に記載された項目と読み方

現状の把握

香川県の食農連携における背景を概況として知りたい方へ

第1章 統計等で見える香川県の特徴 P 5

香川県の食や農にかかる生産、製造、商業・観光、行政施策等について整理を行うとともに、地域において先行する活動や取組、地域のブランドなどについて整理を行いました。

検討と分析

戦略分析の方法や展開可能性について検討したい方へ

第2章 地域ポテンシャルの分析と戦略展開の可能性 P 17

香川県の地域ポテンシャルを抽出・分析し、これからの香川県における食農連携等の戦略性を整理するとともに、戦略の基盤となる展開の可能性について検討を行いました。

検討では、展開を進めるためのキーワードおよび検討・分析をモデル的に行うための対象サンプルを抽出し、各サンプルにおける連携展開の可能性についてロジックモデルによる分析を行いました。

個別事例の把握

香川県内で推進されている食農連携等に係る事例を知りたい方へ

第3章 テーマ別事例検証 P 31

香川県における連携展開の可能性においてロジックモデルで分析を行ったテーマに対し、現地で活動を推進する方々は、現在どのような展開を講じ、これからの可能性についてどのような思いを抱いているのでしょうか。現地取材を行い事例として紹介しました。

整理・まとめ

これからの香川県における食農連携等を目指すには

第4章 これからの香川県を見据えて P 45

本書に記載した内容の取りまとめと、これからの香川県に求められる戦略視点とその要件をまとめました。

展開のきっかけ

重要な要件となるのは情報! 地域の関連情報の所在を知りたい方へ

第5章 関連情報の整理 P 51

これからの取り組みを推進させるには、地域の各種機関や拠点が有する情報をどのように一元化し、利活用できるようにするかです。その参考として、本書の策定メンバーや関係者が有する情報の整理・集約を行いました。